

延浄寺だより

平成二十七年お盆

七月十三日正午よりお盆合同法要

03.3326.7337
03.3326.2797
FAX 03.3326.5037



最近はお盆と言え八月十三日から十六日の旧盆が有名ですが、東京では新盆の七月十三日から十六日までの四日間です。

今年、七月十三日(月)正午より合同法要を行います。皆さんと一緒に阿弥陀様をお勤めし、阿弥陀様とご先祖へ感謝の思いを深めます。

自宅での自宅盆

特にご自宅で行いたい方はご自宅を訪問いたします。七月盆と八月盆に分けながらお電話を頂き調整します。

寺に集まり親戚・家族盆

(八月十三日～十六日)

また八月には、お盆を機会に親戚や家族が寺に集まる親戚・家族盆も可能です。本堂で短い読経の後、お弁当持参で親族の親睦などはいかがですか。読経のみ事前に連絡していただき調整します。お墓参りと食事会だけでもかまいません。場所は会館一・二階を適当に使ってください。



お盆特集

なぜお墓まいりをするのか

今回のお盆だよりは、お盆になぜ墓参りをするのか、ご先祖はお墓にいるのか、浄土真宗では命が尽きるとどこに行くのか、浄土真宗のお墓参りの意味を新しい視点で記しました。

浄土真宗はすべてが阿弥陀様

私とご先祖のいのちは阿弥陀様の光の中に阿弥陀様の光を信じている方が「ご門徒」

でその光の中で私が生かされています。もちろんご先祖のいのちも阿弥陀様の光の中にあり、阿弥陀様の光は無量・無限で、絶える事もないのですから、ご先祖のいのちと私は阿弥陀様の光の中で共存しているわけです。私達は身体が減びるといのちは阿弥陀様の光の中に入っていきます。これを往つて生まれるから往生と言います。阿弥陀様の光の国を極楽と言いますから、昔から亡くなると極楽浄土に往生するといわれています。

浄土真宗は霊は存在しない

亡くなると一瞬のうちに阿弥陀の光の中に入ってしまう、これを即得往生と言います。ですから浄土真宗では四十九日まで霊が迷っているという考えはありません。また霊そのものもありません。ですからご霊前という言葉もありません。

故人・ご先祖は阿弥陀様の光の中からこちらを見ている

阿弥陀様の光は無限ですから時間を超越しています。光の中に入れば亡くなった故人もご先祖も向こう側から今の私達を見る事ができます。これは夜、車の外からは誰が運転し、誰が乗っているのか、わかりませんが、車の中からは外がよく見える事と同じです。

光の中の向こうからはこちらがよく見えるのです。私達は故人やご先祖に見守られながら、その大きな力に支えられています。

昔の人は、「そんなことをするのはない、ご先祖様は見ているよ、ご先祖に申し訳ない」と言いながら子供を育てたのです。ご先祖の見えない力に支えられている感謝の集いがお盆といつてよいでしょう。

お盆はご先祖に感謝する一週間です

ですから阿弥陀様の光の中のご先祖にお参りすればよいのです。でもお盆にはお墓参りをする習慣があります。

他宗では十三日にお墓に迎えに行き、十六日に送っていく、その間ご先祖は帰郷・里帰りをしています。ご先祖が里帰りをしているのです、私達もみんなでご先祖を迎えようと里帰りをする、これが一般的なお盆の帰省です。

お墓参り

浄土真宗のお墓参りの意味

私は時々極端にお話しますが、「お骨は故人の忘れもの」という言い方をします。故人は阿弥陀様の光の中にいるのですから、お墓の中にはいません。ですから「ご先祖のお墓参りに出かける」とは理屈に合わないわけです。

ご先祖のお骨は墓にあるわけがありませんが、もう少し別の見方をすると「お骨は故人の忘れ形見」ということもできます。

墓参りは故人との「気の触れ合い」

お墓参りは、お世話になった「故人の忘れ形見」の前で感謝の気持を深める事なのでしよう。「忘れ形見」の思いが深ければ深いほど、お墓の前には故人の「気」と私の「気」の触れ合いが生まれます。

ですから「その気」になってお墓参りをすると「気」が落ち着き、安らいだ気になります。このやすらぎは「故人からの発せられた気」なのでしようか、「お墓参りをしないと気になつてしようがない」と思われる方は、故人からの気が届いているのでしようか、ぜひお墓参りにお出かけ下さい。安らぎの気持ちが生まれます。

お墓に南無阿弥陀仏と俱会一処を刻字する意味 「その氣」に気づかなくても墓前で世話になり、想い出をたくさん残してくれた故人を偲ぶと、無常観というか、どうしようもない自分に気がつきまます。ですから、そんな時、浄土真宗のお墓には「南無阿弥陀仏」(自力でどうしようもない時は阿弥陀様にお任せしなさい)と彫つてあります。また、やがて私も往きますと「俱会一処」(阿弥陀様の中に記されていて、ひとところ共会うこと)と刻字されてもいます。

永代経について

浄土真宗寺院の

年間二大行事は報恩講と永代経

報恩講は十一月二十三日

報恩講は親鸞聖人のご恩に報いるために、当寺では毎年十一月二十三日十一時から法要と法話、そして親鸞聖人ゆかりのお齋を法話会有志の方に料理をお願いし会食をしていただいております。後日ご案内をお出しいたしますが、今年「親鸞聖人一代記」を落語家の三遊亭右左喜師にお願いしております。

永代経は今年から取り組みたい

永代経とは浄土真宗のご法儀が何時までも栄えるように各寺で「永代経」の宗教行事を行うものです。お世話になった故人への思いがまたご先祖への感謝の願いが、いつまでも絶える事がないように、お勤めをする行事です。

春に行く寺が多いのですが当寺は行っていませんでした。浄土真宗の重要行事は復活させた方がよいとの声で、今年単独では行わず秋の彼岸と報恩講の行事を重ねて、まず行い、来年は春の連休あたりに単独で実施したいと思っております。

何をどうするのか

普通、法事は思い出深いお世話になった故人に一周忌三回忌七回忌十三回忌十七回忌二十三・二十七回忌三十三・三十七回忌――と触れ合いの深い方がご来寺して法事を行います。

それでも故人の為に何かをしたいというお気持ちの方が、故人の思い出が残るように、寺に物品を寄贈する。特別布施をするならわしもあります。当寺も先代までは天井・幕・焼香台などのほか法衣などを寄贈して頂きました。お名前が物品に記されています。

これは故人の力で延浄寺のご法儀が繁盛するようにとの願いからです。お気づきかとも思いますが本堂右上に三〇万円以上の特別布施の方々の記名がしてあります。一般布施は今回は頂きませんが「故人の思いを残すため」特別布施をご案内することになりました。特別布施の用紙を用意しておりますので記入し提出して頂ければと思います。

永代経特別布施には、故人の氏名・法名・往生年月日・行年(当寺のお檀家でなくても田舎の父母でも親戚でも知人でもかまいません)布施をされる方のお名前を書きご連絡下さい。揭示いたします。本堂に來られれば、いつもこの方を思い出し感謝が深まるようになります。

お盆でご来寺の時ご覧になり、申込用紙に書いていただければ随時かきあげます。上記の内容をはがきに書いて当寺宛てに送っていただいてもかまいません。またお盆の時にこれを書きお持ちになってもかまいません。お彼岸・報恩講の時に揭示紹介し誂経を致します。来年からは「永代経の日」を設けます。

お墓事情

延浄寺のお墓として次の四種類のお墓がありますが、最近特に散骨に力を入れ宣伝しています。

私はお墓の中にはいません。阿弥陀様の光の中です。ですから身体は早く自然にもどることがよい。これは浄土真宗の考えに合っています。

散骨 その1

「私が死んだら葬儀も法事もいらない」

という方は結構おられるようですが、そんなことを言つて亡くなつても、後のものが困るわけです。

そのような時、生前に当寺に来ていただき、亡くなつた時、私は阿弥陀様の光の中に入つていくという気持ちがあれば、お檀家にならなくても受け入れてあります。

このお墓には花立ても、香炉も、墓誌もありません。法名もありません。

ただし決められたお布施は頂きます。散骨 その2

「葬儀や法事はあつたほうがよい。お墓参りもしてほしい。」

これも生前の約束が大切ですが、お檀家の紹介であれば、またご門徒であれば、お骨になつてからでもお受けいたします。

このお墓は花立て・香炉はありますが、墓誌はありません。法名はお付けいたします。

散骨してしまうのが淋しい場合は、また「忘れ形見」という思いが強い方には、散骨時にお骨を少し入れた、小さな「手元供養」を今年からさし上げています。

小さなお墓 「手元供養」

手元供養は家庭に置ける「小さなお墓」です。お墓をお持ちでない方が、散骨をした後小さなお骨をお持ち帰りになれば、もうお墓をつくる必要がなくなるかもしれません。

延浄寺のお墓

- * 1 完成墓地もあります(単位はセンチ)
A. 九〇×一二〇は三五〇万円が一基、
B. 六〇×一二〇は二六〇万円が一基、
C. 六〇×六〇は一八〇万円が四基、
D. 七〇×七〇 特別価格一基一三〇万円
- * お檀家の親族であれば一〇%引きにします。
- * お墓の親族でなければ一〇%引きにします。
- * 2 延浄寺やすらぎの墓 五〇万円
(お布施ですらから相談によって決めます)
- * 3 延浄寺散骨 (希望により手元供養を含む)お檀家になればお布施一〇万円/檀家にならず葬儀も法事もしない場合は三〇万円
- * 4 手元供養 小さな骨壺に写し家に安置します。布施は散骨に準じます。
- * 5 ペットの墓 お檀家であれば五万円、その他は一〇万円 ただし刻字代は別途三五〇〇〇円

各種相談

お墓についての相談だけでなく、葬儀についての相談はいつでも電話をして頂ければお受けいたします。また世話人の方で、介護等の行政サービスに詳しい方がおります。お一人で悩みを抱えないで、どのような手順で何をすればよいか、相談に乗っていただけます。どうぞお電話をください。お繋ぎいたします。弁護士の方も必要であればご紹介いたします。

延浄寺の仲間づくり

* 歌声は毎月最終金曜日十時半から十二時のアコーデオンの先生の指導で懐かしい歌の数々で楽しみます。六十代を中心に二〇名位

* 健康体操 七月は第二金曜日 八月は第三金曜日 午前十時から十一時半 身体を動かして汗をかき健康維持、骨盤・呼吸体操です。プロの女性指導者です。参加者は五・六十代の女性です。(男性も可)

* 六十五才以上の男性の会 次回は八月二十日午後五時から七時まで、二品以上のつまみを持参、飲まなくても結構です、友達・仲間ができます。地域の方等含めて一五人程度の気の置けない人の集まりです。

* その他、生け花 カラオケなどがあります。